

# 介護助手導入

## 事業所概要

- ・事業所名：特別養護老人ホーム かぐのみ苑
- ・サービス種別：介護老人福祉施設（定員：50人）
- ・プロジェクトメンバーの構成：介護主任、副主任、介護職員、施設長、事務長

## 取組に至った背景

○人員不足から介護職員の業務量が逼迫しており職場の人間関係も悪化しつつある。直接業務・間接業務の業務の切り出しを行い、間接業務の一部を介護助手にお願いすることで介護職員の負担軽減を図る（介護職員が間接業務を行っており、利用者様と接する時間が限られている）。

## 課題解決のプロセス

- Step1  
業務の棚卸しを行い、間接業務と直接業務を分ける
- Step2  
看護職員、介護職員、シニアパート介護職員、介護助手、清掃員ごとに 時系列分担表作成
- Step3  
時系列分担表で、業務の見直し
- Step4  
介護助手募集方法検討
- Step5  
介護助手採用各フロアに指示連絡リーダーを配置

例）業務の棚卸し

No	業務概要	頻度	時間 (1回あたり)	分類			補足があれば
				やめる	変える	介護助手	
1	カーテンを開ける	毎日	15分			○	3F28か所、4F22か所、15分×30日=450分 7.5時間/月
2	豆球を消す	毎日	10分			○	3F19か所、4F22か所、10分×30日=300分 5時間/月

### ※取組時のポイント・工夫※

- 勤務時間・業務内容についての説明を行い、本人の希望に合わせて勤務時間の設定を行い、業務内容をすり合わせていく。

## 取組効果

### 【質的な効果】

介護職員の直接業務に関わる時間が増えた。

### 【量的な効果】

- (1) **介護助手2名採用** ・介護助手A 1日2.5時間 × 週3日(60代男性)  
・介護助手B 1日4時間 × 週5日(70代男性)
- (2)業務分担表を作成し、食事の時間帯の介護職員の負担を軽減するために看護職員が介助に入ることにより **1か月あたり300分軽減**。

## 同様の取組を検討している事業所へのアドバイス

- ・介護助手を採用することにより、**介護職員が直接業務に専念**でき、介護職員負担軽減につながる。
- ・**業務を切り出して整理**することで、各職種の役割が可視化され、業務見直しのきっかけになる。
- ・人員不足で話し合いの時間が確保しづらい時もあったが、取り組みを進めることで**介護助手導入**という成果につながった。改善は行動しなければ始まらないため、**まずは小さく「やってみる」姿勢が重要**となる。